

大山町議会議長 杉谷洋一様

大山町議会議員 近藤大介



平成29年度大山町議会議員研修報告書

1	日時	平成30年1月11日(木)～12日(金)	
2	研修地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所	
3	研修内容	(内容)	(場所)
		防災と議員の役割	滋賀県大津市
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	<p>講師およびコーディネーター： 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 鍵屋一 教授 (元・板橋区危機管理担当部長、区議会事務局長)</p> <p>1) 地域防災力を向上させるために 講師：明治大学大学院 危機管理研究センター 中林一樹 特任教授</p> <ul style="list-style-type: none">・【災害対応】 自助7割・共助2割・公助1割 →置き換えると 地元自治体7割・自治体連携2割・国1割 →3日間は地域でがんばる備えが必要【食料・物資】 →自助が共助を可能にする【自宅の耐震化は大丈夫か】・【自治体BCP(事業継続計画)が必要] →役所、職員も被災する…全てに対応できない、資源をどこに投入するか・お金がかかるのは復興…国土強じん化(事前防災)・地域防災計画…復旧復興のウエイトが低くそれでいいのか> 速やかな復旧復興のため・【災害時の議員の役割】…公助と共助、平時とやることは同じ →普段やっていないことは、災害時にもできない →議員は自助のモデルであるべき <p>2) 平時の防災</p> <ul style="list-style-type: none">・【正常化の偏見】…「自分は大丈夫」という思い込みを打ち破る・同調性バイアスでみんなを巻き込む →(率先避難者)一人が動くとみんなが追随する・大災害時、防災計画は有効か?…ワークショップで検証すべき <p>3) 平時の防災(ワークショップ)</p> <p>～岩手県大槌町の災害対応から、行政がすべき平時の防災を考える</p> <ul style="list-style-type: none">・津波で職員が38人死亡し、地域のキーパーソンも多く亡くなり、避難所運営が大変だった。普段の人間関係づくり、地域のリーダー養成が大切。	

研修結果
又は概要
(意見・
感想)

4) 災害時の議会・議員活動 (ワークショップ)

- ～東日本大震災での宮城県東松島市議会議員の行動、から考える
- ・議長のリーダーシップが大切。人脈の有効活用。
 - ・災害時の議会行動マニュアル (議会 BCP) があった方がよい
 - ・安否確認、情報共有にタブレット、LINE を有効活用。

5) 災害直後、復旧復興期における議員の役割

～「熊本地震」から考える地域防災力、コミュニティを支える地方議員の役割
講師：熊本市議会 小池 洋恵 議員

- ・市民を守る立場として「想定外」とは決して言えない
- ・行政情報のラストワンマイル、市民からの情報ファーストワンマイルが重要
→初動が重要。議員がパイプ＝「情報のハブ機能」に
- ・リーダーの情報処理能力で大きく左右される
- ・自分が生きないと、市民を助けられない
- ・災害 (プロ) ボランティアとの連携…日頃のネットワークづくりが有効
- ・避難所では全ての人が生活弱者になる
→誰が、どう仕切るか、で避難所運営が大きく左右される

6) まとめと展望

- ・「(行政の) じゃまをしない」を超えて！
→議会・議員の活動ルールづくりが必要
- ・(2次) 災害予防・応急対策…平時の取組み、発災後は議会対応が困難
- ・市町村内の「地区防災計画 (=共助の計画)」は大丈夫か
- ・議員や地域のリーダーは、自らが被災しないように準備

まとめ

災害時に議員は何をすべきか…何かをするためには、まず自分が活動できる状態であることが必須であり、そのために、議員は防災のお手本でなければならないと学んだ。

自宅の耐震化や家具の転倒防止などをしっかりして、災害時にまず助かることが必要である。根拠もなくなるとなく、自分は助かるだろうと思うことや、大したことないだろうと思うことは、心理学で「正常化の偏見」と言われるもので、危機管理上は特に気をつけなければならない。

大災害が起きて、多くの犠牲者が出た場合、公共の担い手も被災する状況で災害対応はじめとする公共サービスをいかに維持するか、平時から何度もシミュレーションしておくこと (=自治体 BCP) の必要性を感じた。